

# 激変する時代～10年の変化～

## 1 わが国周辺の安全保障環境の変化

わが国は、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しています。わが国周辺国などは、この10年で軍事的な能力の大幅な強化に加え、ミサイル発射や軍事的示威活動を急速に拡大・活発化させています。

### 2013年以降のわが国周辺国などの軍事動向など (初めて確認された事象を中心に)

#### 北朝鮮

わが国の安全保障にとって従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威

#### ロシア

わが国を含むインド太平洋地域において、中国との戦略的な連携とあいまって安全保障上の強い懸念

#### 中国

対外的な姿勢や軍事動向などは、わが国と国際社会の深刻な懸念事項  
これまでにない最大の戦略的な挑戦

#### 2016年以降、中国は日本海に軍用機を飛行させ活動の範囲を拡大・活発化

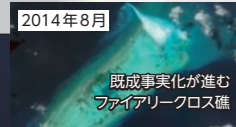
- 中国軍機 (Y-8 早期警戒機、Y-9 情報収集機) の日本海初確認 (2016年1月)
- 爆撃機 (H-6) の初確認 (2016年8月)
- 戦闘機を含む編隊を初確認 (2017年12月)

#### 2013年以降、中国は太平洋に軍用機を飛行させ活動の範囲を拡大・活発化

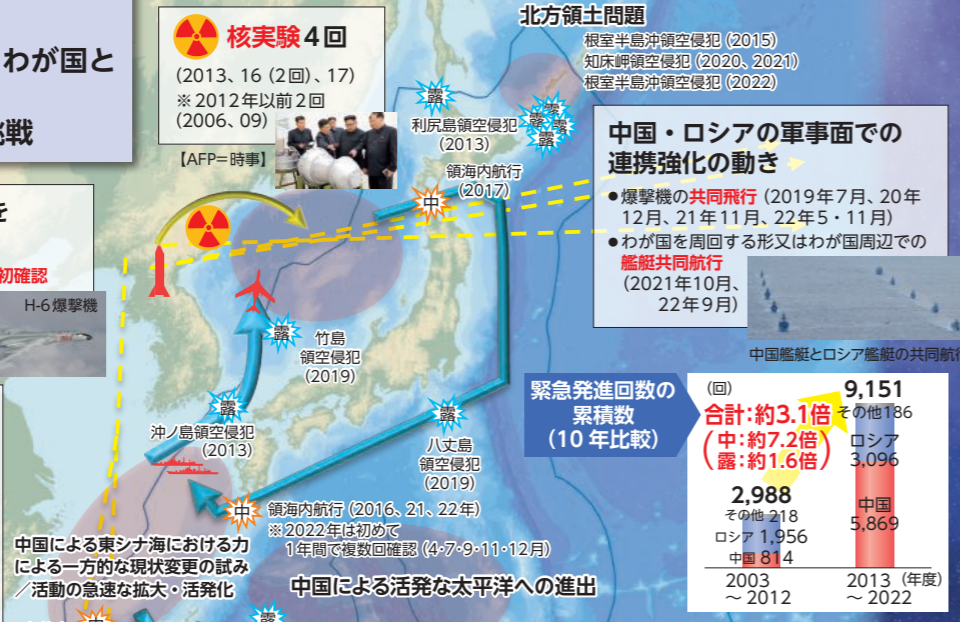
- 中国軍機 (Y-8 早期警戒機) の沖縄・宮古島間通過を初確認 (2013年7月)
- 爆撃機 (H-6) の初確認 (2013年9月)
- 戦闘機を含む編隊の沖縄・宮古島間通過を初確認 (2016年9月)
- 無人機による沖縄・宮古島間通過を初確認 (2021年8月)

#### 南シナ海での力による一方的な現状変更及びその既成事実化を推進

- 2014年以降、南沙諸島7地形において大規模かつ急速な埋立を行い、インフラを整備
- ※2012年、スカーボロ礁を事実上支配



【出典：CSIS/AMTI/Maxar】

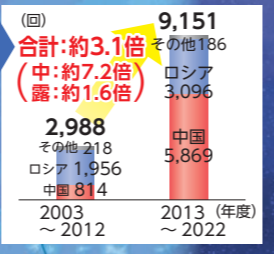


**核実験 4回**  
(2013、16 (2回)、17)  
※2012年以前2回 (2006、09)

**北方領土問題**  
根室半島沖領空侵犯 (2015)  
知床岬領空侵犯 (2020、2021)  
根室半島沖領空侵犯 (2022)

**中国・ロシアの軍事面での連携強化の動き**

- 爆撃機の**共同飛行** (2019年7月、20年12月、21年11月、22年5・11月)
- わが国を周回する形又はわが国周辺での**艦艇共同航行** (2021年10月、22年9月)



#### 太平洋における中国空母の活動

- 「遼寧」(1隻目の空母) の太平洋進出**初確認** (2016年)
- 太平洋上で「遼寧」艦載戦闘機 (推定を含む) が飛行 (2018年4月、20年4月、21年4・12月、22年5・12月)
- 「遼寧」の活動期間中の**艦載機発着艦回数過去最多** (300回以上) (2022年)
- 「山東」(2隻目の空母) の太平洋進出**初確認** (2023年)

#### 尖閣諸島周辺において中国艦艇などが恒常的に活動

- 中国海軍水上艦艇による**接続水域への入域** (2016年6月、18年1・6月、22年7月)
- 近年、**領海内で中国海警船が日本漁船へ近づこうとする事象**が多発 (2020年8件→21年18件→22年11件)
- 砲のようなものを搭載した中国海警船などが**領海に初侵入** (2015年～)

#### 台湾周辺における中国の活動が活発化

- 従来から、台湾について平和的統一の方針は堅持しつつも、**武力行使の可能性は否定せず**
- 弾道ミサイルがわが国EEZ内に**5発着弾** (2022年8月)
- 台湾空域への**中国軍機の進入機数が大きく増加** (2022年)  
※2020年380機→21年972機→22年1733機



J-16 戦闘機

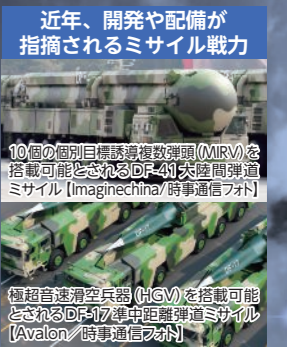
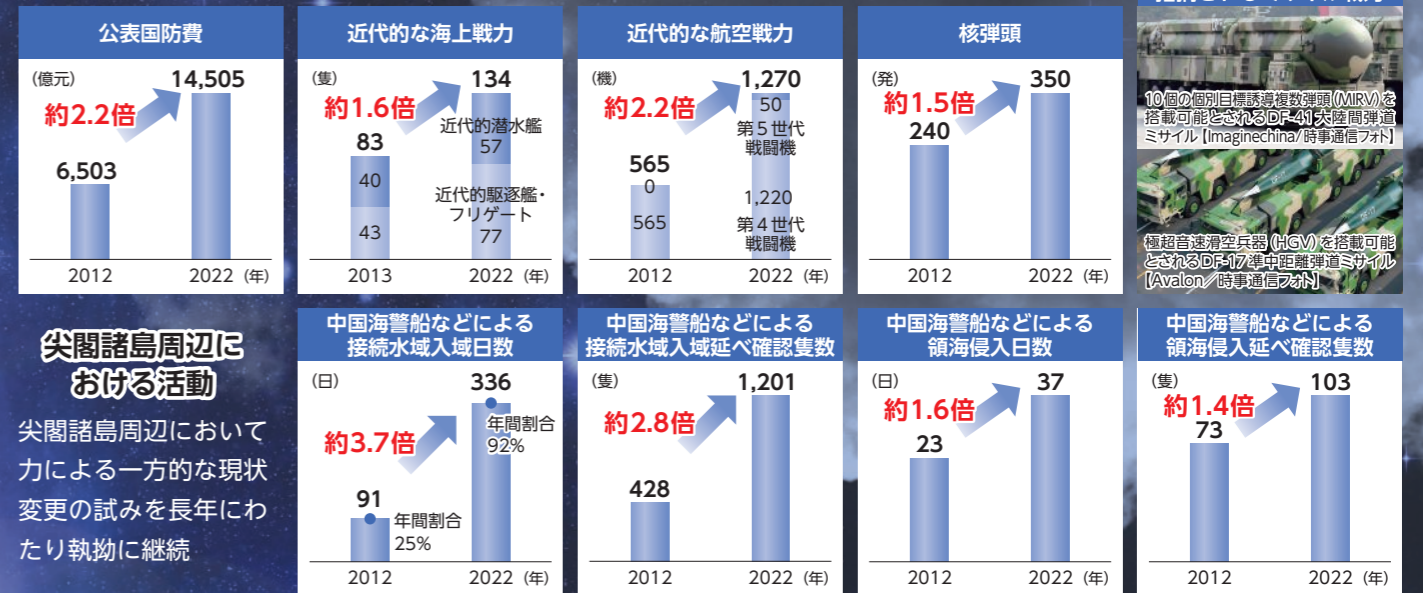


2022年8月の中国の弾道ミサイル発射のイメージ

2022年12月に国家安全保障戦略が新たに策定されました。

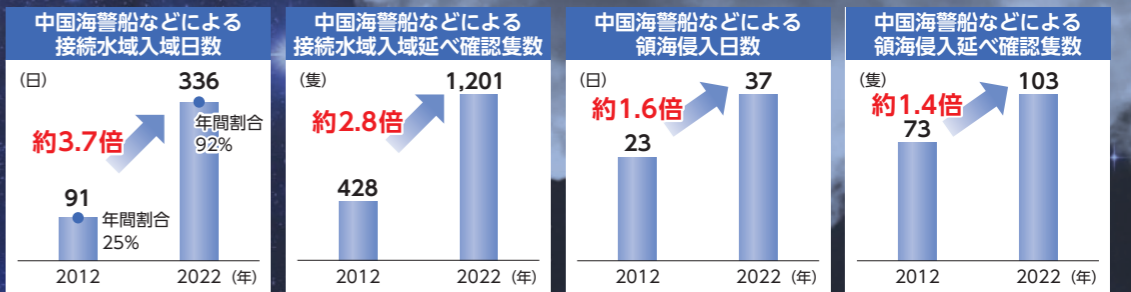
巻頭特集1では、安全保障環境や防衛力整備、同盟国や同志国などとの連携について、2013年 (前国家安全保障戦略策定時) 以前と2022年 (現国家安全保障戦略策定時) までの「変化」に注目しました。

国防費の高い水準での増加を背景に、海上・航空戦力や核・ミサイル戦力を中心に、軍事力を広範かつ急速に強化しています。



#### 尖閣諸島周辺における活動

尖閣諸島周辺において力による一方的な現状変更の試みを長年にわたり執拗に継続



核・ミサイル開発が急速に進展。弾道ミサイルに核兵器を搭載してわが国を攻撃する能力も保有しているとみられます。この10年でミサイル関連技術が飛躍的に向上



核戦力を含む各種装備の近代化を推進し、北方領土及び千島列島に新型装備を配備するなど軍備を強化しています。また、中国との共同活動を活発化させるなど連携を深める動きがみられます。

今回のウクライナ侵略は、国際秩序の根幹を揺るがし、欧州方面においては安全保障上の最も重大かつ直接の脅威



この10年間で北方領土を含む極東に新型装備を配置、ミサイル戦力を増強

